

とうきょう すくわくプログラム活動報告

	4歳 さくら組
施設名	妙福寺保育園
施設所在地	練馬区南大泉5-6-47
法人名	宗教法人

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂

- ・砂を使い想像しながら遊ぶことを楽しむ。
- ・砂遊びを通して友達とイメージを共有していくことで社会性を身につけて欲しい。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

普段の遊びに何気なく使用することの多い砂に目を向け、暖かさや冷たさを感じそれがなぜなのか考える思考力を養っていきたいと思った。また、チクチク言葉をふわふわ言葉に言い換える練習をしている為、活動を通してお互いに気付きや感じたことを言葉で伝え合えるようになって欲しいと思った。個での遊びから小集団になっている為、友達と活動を共に行うことで協同性に繋がると感じた。以上の理由から砂をテーマとして活動することとした。

2. 活動スケジュール

①砂くらべ ②マップ作り ③砂の出来る工程を知る→絵本を通して砂の出来方だけでなく、様々な砂遊びを知る ④砂遊び ⑤境内の砂探し ⑥音比べ ⑦お気に入りボトル作り ⑧サラサラ砂作り ⑨砂の観察 ⑩砂絵 ⑪砂の足風呂 ※砂時計を使った活動をしたり、水の入った砂絵を見たりしていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

子どもたちが使いたいものを自由に使えるよう、ふるい、プラスチック容器、ステンレス製容器、R1容器や缶、空き箱、テープ、ボンド等を用意していった。一緒に作成した砂マップを掲示したり、友達の砂絵の写真を貼り出したりすることで関心が持てるよう、室内でも環境を整えていった。お気に入りボトルは作った後に飾るスペースを作ったことで自由遊びの際にも手に取れるようにした。画用紙も数色用意し、各自が選りながら砂比べや、形作り等を楽しめるようにした。戸外で制作をする際には集中できるよう、キャンプ用椅子と机を用意していった。また机を出すことで子どもたちの手に取りやすい位置にテープや素材を置くことが出来た。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

まず初めに園庭内の砂には場所によってどんな違いがあるのか目を向けられるよう、砂の比べ合いを行った。砂は比べやすいように黒い画用紙を用いた。比べたものを元に“園庭砂マップ”を子どもたちと作成し、感触の違いや、容器に入れた際に聞こえてくる音の違いを書き込んでいった。音にも様々な違いを感じられるようにステンレス製の物やプラスチック容器、パネル等素材の違うものを使用していった。マップを見てから園庭へ出ると書いてあることを再確認し友達とそのことを共有できていた。また絵本を通して砂がどのようにして出来るのかを知り、砂遊びへと発展していった。砂絵やお気に入りボトル作り、サラサラ砂作り、砂風呂等の活動を取り入れていった。造形遊びやお気に入りボトル作りを取り入れることで自分の作り上げた物に愛着を持って活動が行えるようにしていった。砂絵は出来た子から太鼓橋を使い、乾かしながら飾っていき、友達の作品も見られるようにした。空き箱を用意していたことで楽器を作る子もいた。また、砂場に雨どいや滑り台を用意することで砂の落ちていく様子をじっくり観察することも出来た。砂と一緒に滑り、砂場に下りることを楽しむ様子も見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

まず初めに保育者が砂くらべを行った。そこへ興味を持った子たちが集まり、様々な砂を比べていく遊びに発展していった。暖かさや感触、粒の大きさ等に気が付き口々に教え合う姿が見られた。砂比べでは音の違いにも目を向けられるよう異素材の容器を用意することで、子どもたちが自分たちで試すことが出来ていた。ちょっとした刺激を与えることで子どもたち自ら砂比べをしたり、お気に入りの場所を見つけたりしていた。サラサラ砂づくりでは、どこの砂だとよりふるいにかけてやすく、触り心地が良かったのか子ども同士で共有する姿も見られた。その砂を溜めていき砂風呂作りにも発展していた。保育者が子どもたちの集めた砂をタライに入れ、日陰と日向に置いておくと、手を入れて温度の違いを友達と共有し合う様子もあった。砂場では造形遊びが盛んに行われており、ままごとをしたり、友達と協力して大きな山を作りトンネルを数方向から掘って繋げたりしていた。トンネルを掘る際に作った山が崩れないよう穴を友達と近い位置から掘らないようにしたりすることや、山作りをする際に固めていったりすると良いことに気が付いていた。山を固める際には水を使うことでより頑丈で崩れにくくなることも普段の遊びから気が付き実践していた。砂場の砂をパンに見立ててウッドデッキに平らに広げ、麺棒でより平らになるようにしていた。砂だけでなく、石や葉っぱ、枝、花等の自然物も周りであることを伝えたことで、砂遊びで作った山や料理の飾りに使用する姿が見られた。戸外を裸足で歩くことで場所による感触の違い、暖かさ、冷たさを足からも感じる事が出来ていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

子どもたちは活動を通して砂の違いに目を向けながら、関心を持ち気に入るものを探したり触れながら遊んだりしていた。砂を使って何か別の物を描くという発想には驚かされた。それぞれが興味のある遊びに集中して遊ぶ姿が見られていた。触ったり、見たり、聞いたりすることで五感が刺激され、そこからまた新たな気づきが子どもたちの中で生まれていた。子どもたちは、その気づきを言葉でやり取りすることが出来るようになっていた。活動の導入の際にすぐ砂の話に入らず他の自然に目を向けても良いことや、砂時計を活動や生活に取り入れていくこと、砂の違いに目を向けられるようになったら砂のタペストリーを作っていくことも出来ることを職員で共有していった。活動を通して五感を使い沢山の事を感じ取る子どもの姿を見ることが出来た。